

断酒高知

3月号

発行所
高知県断酒新生会
高知市若松町 215
TEL(088)882-2586
発行人 武内 晴夫
編集人 橋本 和明

特集 新型コロナウイルスとの二年間 コロナVS高知県断酒新生会の記録

私たちアルコール依存症者にとって、この令和2年度以上に危機を感じた1年間はなかっただろう。断酒を続けるために無くてはならない、断酒例会が開けなくなってしまうのだから、幸い感染者が少なかった高知県では、かなりの例会会場が確保できたため、新生会ではのべ1ヶ月分ほどの例会を休んだ以外は例会を開くことができた。改めて、関係機関の皆様のご配慮に感謝したい。



コロナ対策で例会でもマスク着用

中国、武漢市で新型コロナウイルス感染がニュースになって1年以上経過した現時点でもウ

イルスの脅威は収まってはいないが、ワクチン接種が始まり希望の光が見えてきた今、この未知の災害に私たちがどう取り組んだのか、会員は何を思ったのか、今号と次号に記録しておきたい。

令和2年2月下旬、国内で徐々に感染が広がり、高知県内でもイベントの自粛が目立ち始めた。そして4月29日、県内初の感染者が発表された。(令和3年2月4日付け高知新聞より)

3月以後、県外では、例会が開けなくなった断酒会が続出、新生会の例会中止は4月から5月にかけてであった。

またセミナーや研修会も中止になった。例年5月開催の松村断酒学校の中止には、全国から残念の声が届いた。

危機感をつのらせた断酒会は、会場での例会以外に様々な取組みを始めた。

会が開けない理由は3密(密閉、密集、密接)を避けるため、またこれにより、会場が貸し出しを中止したためもある。他の断酒会では駐車場や公園などのオープンスペースで行なったり、インターネットを利用したオンライン例会を行ったりした。

松村断酒学校中止は他の断

	日	月	火	水	木	金	土
4	5 12 19 26	6 13 20 27	7 14 21 28	8 15 22 29	9 16 23 30	10 17 24	11 18 25 2
5	12 19 26	1 8 15 22 29	2 9 16 23 30	3 10 17 24	4 11 18 25	5 12 19 26	6 13 20 27

ある会員の日割り表

酒会へも大きな衝撃を与えた。そこで、三光病院院長海野順先生のご提案とご協力により、オンライン断酒スクールを開催。

(次号に掲載予定)

7月から8月に予定されていた東京オリンピックの延期は、この1年の象徴的なエピソードとして語り継がれることになるだろう。一方コロナ対策が形になつてきたため、イベント開催についてもガイドラインが定められ、(マスクの着用・体温計測・手指消毒・座席を一つ置きに使用・換気・拍手のみなど)、断酒会セミナー等も規模を縮小して、例えば県内断酒会のみに参加者を絞るなどして開催する例が見られるようになった。

新生会の例会実施についてもマスク着用、手指消毒、換気の他、新生会の歌の斉唱を中止、エアー連鎖握手を行なっている。

また、止むを得ず始まったオンライン例会が、そのメリットにも注目されることになり、

徐々に実例会が再開されるようになった現在も、各地で継続して開かれている。

次に、新生会会員のこの1年間の振り返りを掲載した。(順不同)

また、9ページから、下司病院院長・山本道也先生より特別に寄稿していただいた「新型コロナウイルスウイルス感染拡大がアルコール依存症に及ぼす影響」を掲載した。

コロナとの戦いを通じて、断酒例会の大切さ、例会出席なくしては断酒継続がどれほど難しいかを改めて思い知らされた。今後も決して忘れてはならない1年として記録しておきたい。

橋本和明(嶺北支部)

二神啓通(長浜支部)

2020(令和2)年春先に新型コロナウイルスの影響が拡大し、生活に色々制限がはじめてから、

この春で丸1年経ちます。生活すべてに影響が出たのは皆さんそれぞれに経験されたとおりで、断酒会活動に話をしよれば、新生会の支部はほぼ(全部?)中止という時期がありました。

私の所属する長浜支部も会場都合で昨年4月、5月の2回は休会しました。本部例会は辛うじて継続できたのが幸いでしたが、それでも例会数が約半分になりました。加えて、私は医療関係の仕事をしているので、コロナ



で患者さんに接することがしばしばありました。肉体的にもきついし、自分がいつ感染するか分からない不安もあって、仕事が終わればクタクタでした。申

し訳ないことに、貴重な本部例会にすら出る気力がない時期がしばらく続きました。幸い感染することもなく生活も仕事も続けられたのは、例会に行けない時期にも断酒は続けられたおかげだと思えます。コロナ終息にはまだ時間がかかるでしょうが、最近やっと自分の例会出席率が戻ってきています。

例会だけでなく、昨年は松村断酒学校も中止になりました。あまりに残念だったので、ソーバーねっと(三光病院)の協力も得て有志でオンラインのZoom断酒スクールを開催し、それなりの成果を上げることができました。この時の経験は、秋の山陰断酒学校が同じく中止になった時にも生かすことができ、第2回のZoom断酒スクールを開催できました。Zoomを代表とするリモート例会・研修会は、コロナ感染が多い地域では今でも貴重な手段となっております。

コロナが終息しても、社会がコロナ以前と同じ社会に戻ることはありえませません。私たちはこの先もポストコロナ、ウィズコロナの社会における断酒例会のあり方を模索していかねければならないと思います。しかし、物理的な形はどうあるとも、一日断酒、例会出席の基本精神は同じです。松村精神さえ忘れず工夫してゆけば、断酒会が活動できなくなることは絶対ないと信じます。

西内雅信（香南支部）

(1) 一部例会が中止になって思った事・昨年3月～4月は、まったく先が見えない、予測不可能だったので、かなり不安になりました。何よりも、新しい会員・家族の事を思うと、自分たちが入会した時には想像もできなかった、条件の悪さ（一日断酒・例会出席が出来ない等）があり、本当に大変だと思えます。(2) 松村断酒学校が中止になって

思った事・コロナの第1波と、中止が決まった次期には、まさかここまで国内で感染拡大するとは思ってなかったもので、今さえ乗り越えればと思えました。多数の参加者が団体行動する事や、会場内の換気、地域への配慮の事、もろもろを考えると、中止は最善の策であったと、今まさにそう思います。

(3) オンライン例会について思った事・今回のコロナで初めて使ったので、もちろん最初はわからなかったし、かなりつまづきました。音声が後から到着する感じもすごい違和感がありました。スマートフォン又はパソコンを有して、インターネット契約している方が中心になりませんが、場所によっては、1台のカメラで複数人で見聞きしているのを見て、いろいろ参加できる方法はあるなと感じました。今はリアル例会では顔にマスク基本ですが、オンラインで一人1台だとマスク必要ないので、

かえって表情がわかりやすいという利点もありました。また、オンラインが続いた後にリアル例会へ行くと、なお一層、リアル例会の大切さを痛感しました。後、動けない方やなかなか会えない方との安否もわかり、いい所も多々ありました。但し、オンラインだけだと、旧知の仲間たちとは画面上でなんとかありますが、去年入会された会員家族は、本当に大変だと思えます。

(4) 自分はこうして乗り越えた…当会の場合、一部支部と院内例会は中止になりましたが、本部・事務所の会場はずっと使っていたので、助かりました。後、連合会の方でオンライン例会を試みてくれたので、これもまた助りました。自分だけで乗り越えた事は、ない、です。(5) 何でもアドバイス・インターネット端末はスマートフォンだけという方も多いと思いますが、家でパソコンとインターネット接続していれば、パソコンの方

が画面が広いので見やすく楽です。ノートパソコンでも、まだ小さく感じるなら、HDMIケーブルで液晶モニタやTVに接続すれば、マルチビューでも1人1人がよく見えます。チャットにも気が付きやすいです。また眼精疲労や肩凝りがある方は、少しでも楽になる可能性があります。私はデスクトップパソコンで、液晶モニタの上部にWEBカメラを取り付けていますが、スマートフォンやノートパソコンよりカメラが遠くなりますので、自分の顔が間近で下から見上げた感じにならないという利点も生じました。その分、家の中が映ってしましますが、気になるならバーチャル背景を利用するのもいいと思います。後、スマートフォンの契約の内容によつては、利用データ容量が月末までに指定容量に達してしまい、回線速度が遅くなる場合があるようです。映像を送り続ける場合は、

ZoomでもスカイプでもLINEでも、利用データ容量を少し気にかけて方がいいかも知れません。

長野高顕（安芸支部）

コロナの関係を言っただけはそれまでだが、コロナに罹った人はなぜか県外へ行った人が多い、テレビで人の話を聞いているとなぜか自覚が足りないような気がする。それで中止になった気がする。簡単な書きかただが、これがコロナとの一年を振り返って思った事だ。

吉田信也（山田支部）

(1) 一部例会が中止になって思ったこと…「今、酒を止めたい」「今、（病院から）退院した人」へのコンタクトができない。(2) 断酒学校が中止になって思ったこと…今の状況では仕方がないが、全国の仲間とのフェイス・トゥ・フェイスと共の共

(3) オンライン例会について思ったこと…有効活用すべき。ただ、パソコンやスマホを活用できない人へのアプローチが課題。(4) 自分はこうして乗り越えた…

例会が中止の間も「一日断酒」を必須と心がけた。

(5) 何でもアドバイス…（オンラインや電話等を活用して）仲間との関わりを絶やさない。

(6) こうすればよかった…各所でオンラインの活用を強く提唱すること。そのための「見本」となること。

(7) これから何をしよう…できる限り例会開催。ブロック大会等はオンライン活用を幅を広げる。何でも思っていること…オンラインの活用で、出席者（特に遠方も含め）の例会参加が可能になったことは良いこと。しかし前述のように、オンラインを使えない人への対応が課題。

武内晴夫（香南支部）

(1) 一部例会が中止になって思っ

たこと…例会会場の確保が困難となり、日頃なに不自由なく参加できていたことがいかに恵まれていた事か、当たり前の日常を失って初めて知ることとなった。また、例会の有難さ、大切さを再認識することとなった。

(2) 松村断酒学校が中止になって思ったこと…昭和40年9月、高知市の吸江寺にて日本で最初に断酒学校が開催されて以来、今まで一度も中止すること無く75回の開催を重ねてきたが、昨年度初めて新型コロナウイルスの感染防止の為に開催中止を余儀なくされた。2泊3日寝食を共にして、朝から晩まで体験談を聞いたり学習をしたりするその中から、同志が集い顔を合わせて皆で語り学ぶことの楽しさ、仲間が繋がっていることの安心を実感できる日が再び訪れるよう、断酒学校が開催されるまで仲間と共にこの困難を乗り越えたい。

(3) オンライン例会について思っ

たこと…今回の様に会場確保が困難で例会が開催出来ない場合はもちろんだが、さまざまな理由で外出に制約があり、日頃の例会や研修会に参加できない方がたくさんいる。そのような問題を解決するには、オンライン方式を活用することで「一人でも多くの酒害者を救う」という目的達成には、大変有効な手段の一つと感じている。今後はより有効活用するための方法や手段、会員だれもが参加出来るような環境の整備などについてのきめ細かな取り組みが大切な時を迎えたと感じています。



体験発表

國澤 昇平
(城東支部)

「あなたはアルコール依存症です。」と診断されたのは1年前です。自分では大丈夫とと思っていましたが周りからすれば大丈夫ではなかったみたいです。良い事ばかりを考え思いながら飲んでいました。結果どうなるうが自己責任で知った事ではなく、気持ち良くなればいだけでした。「ずっと繰り返し依存になると依存症です。」と言われるのは当然で原因もはっきりしててそうだよなぐらいに思っていました。原因が謎な病気を考えると少しわかりやすく、とりあえずアルコールを止めてみようかと思いました。結局我慢してもしんどいだけで意味がないと思いましたが

の暮らしに戻りました。正直どうでもよかったです。意地で止めようと思つてすぐ気が変わり飲みました。早く酔いたかったし自分なりの安心を求めていました。もちろん迷惑をかける事に慣れていたし、その場しのぎの暮らしでした。

そんな中、一番迷惑をかけていた人に入院治療を勧められました。その人は僕にとって大切な人で、想いがありました。

今を考えてもどうにもならず、ただ迷惑をかけていることは確かだったので何かもうしわけのないなという気持ちになり入院をしてみる事にしました。身体的にも精神的にも辛かったです。アルコールは無いのでどうする事もできません。救いといえば薬である断酒会やAAといった自助グループを勧められました。本当に面倒くささしか感じませんでした。

入院中、僕の大切な人から別れを告げられました。よく失った

後にいろいろ気付くと言いますが、その時は失った事しかわからず、何の為に入院しているのかも分らなくなりました。そんな状態で退院し、また飲みました。さらにどうでもよくなりました。全然楽しくはないのですが飲んでるほうがましでした。

ある日、久しぶりに僕の大切な人からメッセージが来ました。頑張つてねという内容の動画でした。まさかとは思いましたが嬉しかったです。誰の為でもなく自分の為に飲んでいた自分をこんなに、と思い、もう一度頑張ってみようと思いました。辛さは繰り返しでしたが仕方の無い事です。

退院し、まずは環境を変えました。自分に甘いのは昔からので、なるべく一人にならない環境を考え、嫌な気持ちもありましたが一つの踏ん張り時だと思い実家に帰りました。実家内では僕はアルコール依存症だと分つてくれていたので、人間関係でのアルコールへの誘惑はほとんどありませんでした。病院へは通院しており、お決まりのように自助グループを勧めてきました。AAには毎回テーマがあり、それなりの事を話さないと、と考えるのが嫌だったので、テーマが無い断酒会を選びました。

最初は何も話せず挨拶程度でしたが、アルコール依存症の先輩方やその家族の人達から喜ばれた感じを受けました。人それぞれ過去や体験は違いますが、アルコール依存症という病名は同じで、そこには理解を感じました。それまでの悪さや辛さ薬さを認めてくれてる気がして反省の気持ちが増えに行きました。

アルコールありでの今とアルコールなしでの今、僕にとって気付けてくれたのは周りの人達です。そして自分自身ゆつくり見つめ直しをしていきます。

これから先、何が起きるか分かりませんが自分を思ってくれている人は近くても遠くても会えなく

てもいると思います。自分から思う人もいます。気持ちの変化はありますが、誰かにとって少しでも良い人生を歩んで行きたいです。

國澤 昌志
(家族 城東支部)

家族が断酒会に入会させていただいたのが、2020年2月下旬で、新型コロナウイルスが頻繁に報道され始めた頃でした。

アルコール依存症と診断されて、ちょうど半年が過ぎた頃でしたので、新型コロナウイルスというよりも依存症という病気が、今後どうなっていくのかという不安が、家族全員の頭の中に絶え間なくよぎっていました。

アルコール依存症になって、本当にアルコールが断ち切れるのか、そもそもアルコール依存症のことを、世間一般的な話としては聞いたことはありませんが、具体的にどのような病気なのかも分からず、完治することができのかなど、分からないことだらけでし

た。

医師から、断酒会を教えてください。ただき、本人が例会に参加するように、その後家族も参加するようにになりました。私自身も例会とは別に相談会にも参加し色々なことを教わりました。

断酒会の方々は、すぐに仲良くなれました。断酒会の方から「メンバーの自宅に遊びに行ってもかまんで。誰も拒む人はおらんき。」という言葉が、とても嬉しかったことを覚えています。また、コロナ禍で例会が開催できない時なども、メンバーの方から本人に電話で、「電話例会をしよう。」と例会が開かれる時間帯に電話をしていただいたりしました。他にも、共通の趣味のあるメンバーの自宅にお邪魔したりと、本当に家族ぐるみで、よくしていただいています。

コロナ禍が長期化しそんな中で、例会の開催も難しくなるかもしれないませんが、断酒会に参加していきたいと強く感じています。

令和2年度主な行事の記録

● 高校アルコール教室

12月15日(火) 県立高知南高等学校、1月14日(木) 県立嶺北高等学校で実施。それぞれ、新生会会員が参加し、飲酒に関する体験を講話した。南高校での実施例。

日時／12月15日(火) 14:00～15:30

場所／高校3年生各教室

内容／演題「飲酒と健康」

日程／14:00 講師打ち合わせ(校長室)

14:20 各教室に移動

14:25 講師(断酒会員) 自己紹介

14:30 講話(30分)

15:00 質疑応答

(今回はコロナ対策で省略された)

15:15 終了

(今回は時間前に終了した)

以下ほとんどの行事がコロナ禍のために中止された。

● 飲酒運転根絶キャンペーン(例年11月中旬)

パレード中止(チラシ、ティッシュを手渡しすることを避けた)

● 第7回アディクションフォーラム高知 オンライン開催

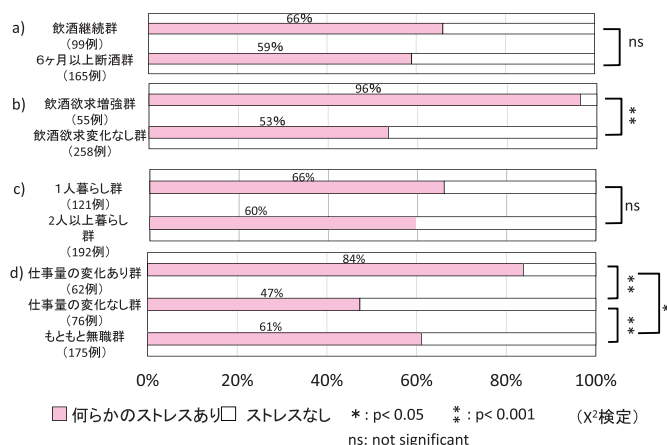
2月11日(木)と3月14日(日) 配信

● 酒なし望年会(例年12月中旬) 中止

● レクリエーション(例年2月中旬) 中止

4 グループ別にしてストレスの頻度を比較(図3)

図3 グループ別にしてストレスの頻度を比較



a) 飲酒状況によりストレスの頻度を比較
 飲酒状況を5つのグループに分けてストレスを感じる頻度を比較したが群間に差はなく、飲酒継続群(99例)と6ヶ月以上断酒群(28例+137例)で比較してもストレスを感じる頻度には有意差がなかった。ストレスの内容については飲酒継続群において、気分の落ち込み、イライラ感、やることがないという項目について有意に高率であった。

b) 飲酒欲求増強の有無とストレスの頻度を比較
 飲酒欲求増強群においてはストレスを感じる頻度は96%で、飲酒欲求に変化がなかった群では40%であり、飲酒欲求増強群において有意に高かった。ストレスの内容においてもほぼ全ての項目で飲酒欲求増強群において有意に高率であった。

c) 生活環境の違いによるストレスの頻度を比較

1人暮らし群ではストレスを感じる頻度66%に対し、2人以上暮らし群では60%であり、1人暮らし群で高い傾向にあった。ストレスの内容では、1人暮らし群で、不安・恐怖感、やることがない、マスク・手洗いのストレスの頻度が有意に高く、2人以上暮らし群では家庭環境の変化によるストレスが有意に高かった。

d) 仕事の有無とストレスの頻度を比較

仕事あり群(122人)、仕事なし群(191人)で、ストレスを感じている頻度はそれぞれ63%、61%で有意差はなかったが、細かく仕事の状況を分けて検討すると、COVID-19により仕事量の変化した(仕事が増えた、減った、無くなった)群において、仕事量に変化しなかった群やもともと無職の群に比べてストレスを感じる頻度は有意に高かった。

調査結果から考えること

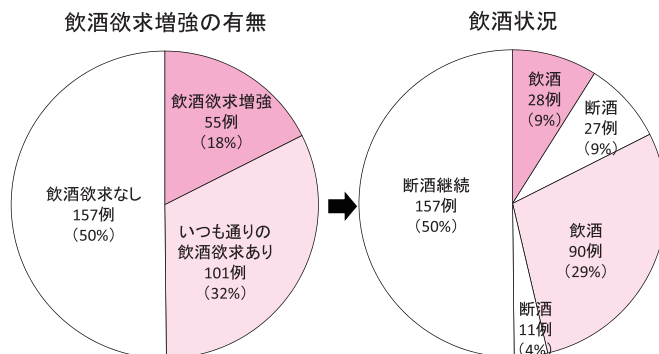
今回の調査によって当院診療中のアルコール依存症の約2割の患者において飲酒欲求が増強し、約1割の患者がCOVID-19によるストレスで飲酒していることがわかった。特にCOVID-19により仕事量に変化した人(増えた・減った・無くなった)や飲酒欲求が増強した人において生活面・精神面でのストレスは高まっていることが明らかとなった。

COVID-19による飲酒者が比較的少ない印象ではあるが、これは今回の調査対象者の約半数が6ヶ月以上断酒例であったことも関係していると思われる。アルコール依存症は全国に約107万人存在すると推測されているが、そのうち約5万人前後しか専門医療機関に受診していないのが現状である。未治療の依存症患者では病気の認識もなく飲酒していると考えられ、COVID-19による影響をより強く受けている可能性がある。

COVID-19の問題は、今後長期にわたって続くと思われ、精神的ストレスに脆弱な依存症患者の飲酒リスクはさらに増大し、病状の再燃や悪化が危惧される。

2 飲酒欲求の増強と飲酒状況(図1)

図1 COVID-19による飲酒への影響

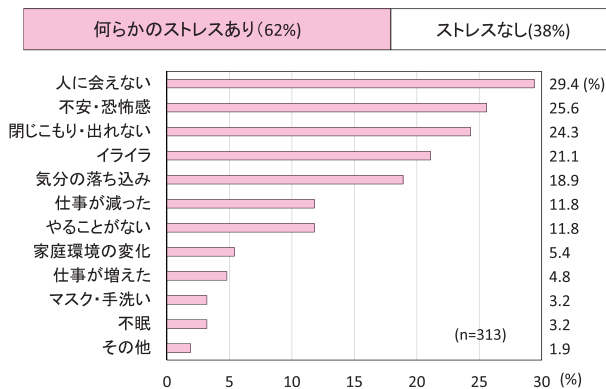


COVID-19による飲酒欲求増強群:55例(18%) →飲酒:28例(9%)
 →断酒:27例(9%)

飲酒欲求に変化がなかった群:258例(82%)
 いつもの飲酒欲求→飲酒:90例(29%)
 いつもの飲酒欲求→断酒:11例(4%)
 飲酒欲求なし→断酒継続:157例(50%)

3 ストレスの有無とストレスの内容(図2)

図2 COVID-19による生活面・精神面でのストレス内容とその頻度



家庭環境の変化:子供や孫の守り、介護の負担増加など
 その他:発熱してコロナを疑われた/身近にコロナ患者がいて差別された/コロナ詐欺にあった

なんらかのストレスあり:194例(62%)

ストレスなし:119例(38%)

ストレスの内容については頻度が高いものから、人に会えない(29.4%)、不安・恐怖感(25.6%)、閉じこもり・出られない(24.3%)、イライラ感(21.1%)、気分の落ち込み(18.9%)、仕事が減った(11.8%)、やることがない(11.8%)、家庭環境の変化(5.4%)などであった。

特別寄稿

新型コロナウイルス感染拡大がアルコール依存症に及ぼす影響

高知県 医療法人共生会 下司病院
山本 道也



院内隠れ飲酒者急増！

下司病院は「断酒会発祥の地」としても知られ、開放病棟50床からなり、入院の95%がアルコール依存症患者が占める依存症専門病院である。病院から徒歩2分のところにコンビニが2軒、居酒屋も数多く立ち並び、徒歩5分のところには『ひろめ市場』という昼間から酒や地元の食を楽しめる観光名所もある。つまり依存症の診療をする上では極めて飲酒誘惑の多い市街地の真ん中に立地していると言える。

私が勤務して今年で24年になるが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大の中で、かつて経験したことのない医療崩壊に近い状況が発生した。4月半ば全国に緊急事態宣言が出され、当院でも患者の外出・外泊を禁止したが、その最中、スタッフの目を盗んで無断外出した患者の飲酒が相次いだのである。飲酒件数4月中18件（12症例）、5月中30件（15症例）と例年に比べ4～5倍の飲酒者が発生したのである。

5月中旬には緊急事態宣言も終了し、病棟の規制も解除。朝礼や例会、酒害教室などで注意喚起を促す中、6月～7月には隠れ飲酒者はなんとか減少に向かった。

この病棟での状況からコロナ禍におけるアルコール依存症の飲酒状況の変化やストレス内容について調査する必要があると考えた。

緊急アンケート調査を実施

6月15日～7月10日の期間に当院で診療したアルコール依存症患者313例（外来262例/入院51例、男性259例/女性54例、平均年齢60±12歳）を対象にアンケート調査を行なった。但し認知症の患者は除外した。

アンケート内容は、現在の飲酒状況、飲酒欲求の変化、COVID-19によるストレスの有無および生活面・精神面への影響、仕事への影響などについてである。入院患者においては入院するまでの状況を問診した。

1 現在の飲酒状況

- 飲酒継続(1ヶ月未満の断酒)群：99例(32%)
- 1ヶ月以上～3ヶ月未満断酒群：28例(9%)
- 3ヶ月以上～6ヶ月未満断酒群：21例(7%)
- 6ヶ月以上～1年未満断酒群：28例(9%)
- 1年以上断酒群：137例(44%)

ご本人や家族の方でお酒に

悩んでいる方はいませんか？

※ 高知県断酒新生会例会案内(ご気軽に)ご参加ください。

毎月開催日	時 間	場 所
第一 日曜日	十九時～二十一時	香美市立中央公民館
第四 日曜日	十九時～二十時四十五分	佐川町総合文化センター
第二・四・五 火曜日	十九時～二十一時	県断酒新生会事務所 (高知市若松町二五)
第一 水曜日	右に同じ	右に同じ
第二・三・四 水曜日	十九時～二十時四十五分	高知市東部健康福祉センター (但し、祝日の場合は県断酒新生会事務所)
第一・二・三・四・五 木曜日	十三時～十五時 (昼間例会・相談)	県断酒新生会事務所 (高知市若松町二五)
第三 金曜日	十九時～二十一時	高知市瀬戸西町公民館
第一 土曜日	休会中	
第二 土曜日	十九時～二十一時	香南市のいちふれあいセンター
第三 土曜日	右に同じ	南国市日章福祉交流センター
第四 土曜日	右に同じ	土佐町農村環境改善センター

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から 「第76回松村断酒学校」開催中止のご案内

令和3年5月8日(土)より10日(月)の日程で開催を予定しておりましたが、「第76回松村断酒学校」ですが、新型コロナウイルスの感染拡大が大きな社会問題となっている現状を鑑み、今回の開催を中止させて頂きます。皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げますとともに、来年度の開催へ向けて、変わらず皆様のご指導とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

編集後記

交通事故にも

コロナの影響か？

高知県警察にうかがったところ、昨年度の高知県内の交通事故件数は前年比減少したにもかかわらず、飲酒が絡んだ事故は18件、死亡者は5名で、これらは一昨年15件、1名で、いずれも増加した。また、飲酒運転の摘発件数も大幅に増加したが、これは昨年当初より飲酒運転の増加傾向がみられたため、取締りを強化した結果のようだ。当事者がアルコール依存症者か？までは不明だが、直接コロナウイルスに因らずとも社会への影響は計り知れないほど大きい禍なのだと実感している。

橋本和明(嶺北支部)